

【成果概要】 5-1 暖冬によるナシ栽培への影響調査

調査結果の概要

■ 平成30年度の成果

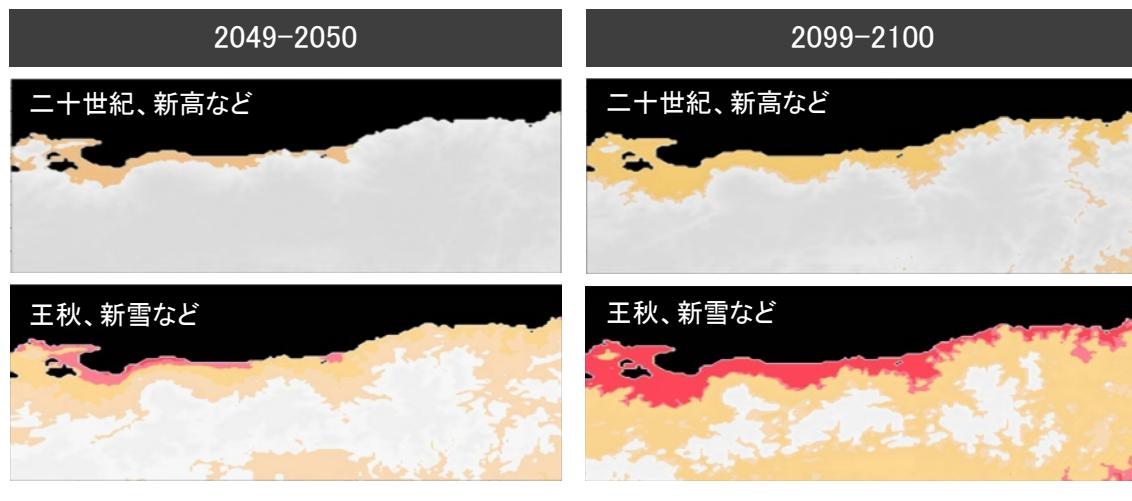
- 既存モデルを改良し、鳥取県（過去に低温不足による被害なし）及び鹿児島県（低温不足による被害が発生）の事例を用いて検証した。
- 鳥取県における将来の影響予測を試行した。
- 自発休眠の打破に必要な低温積算量が大きい‘王秋’などは、ほとんどのケースで栽培不適地が広域に広がることが予測された。

■ 明らかとなった課題

- 現地観測では、一部のナシ品種について、自発休眠打破に必要となる低温積算量の既知の値と異なる結果が得られた（検証が必要）。
- 自発休眠打破から展葉・開花に至るまでの期間等についても検討を要する。

■ 平成31年度の調査計画

- 2期の現地観測結果を分析し、主要ナシ品種が必要とする低温時間を再評価する。
- 予測モデルを検証・改良し、中国四国地域全域を対象として将来の影響を評価する。



栽培不適となる確率 □ 0% 0% < 25% < 50% < 75% <
※MIROC5及びMRI-CGCM3のRCP2.6とRCP8.5(全4ケース)における予測結果のうち、自発休眠打破が4月1日以降となるケースの割合を算出

図 ナシの栽培適地の予測結果の例(MIROC5・MRI-CGCM3、RCP2.6・RCP8.5)

(鳥取大学にて作成)

注:本結果は、今後検証・改良を予定している予測モデルを使用した暫定的なものである。